

2021年4月19日

国土交通大臣 赤羽一嘉様
熊本県知事 蒲島郁夫様

7・4 球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会 共同代表 鳥飼香世子・市花 保
清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会 共同代表 緒方俊一郎
岐部明廣
子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会 代表 中島 康
連絡先 熊本市西区島崎4-5-13 中島康 電話 090-2505-3880

球磨川・川辺川合流点における重大な問題に関する意見書

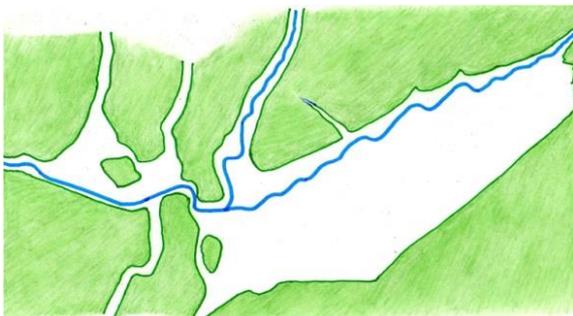
2020年7月4日球磨川・川辺川合流点は下流域に甚大な被害をもたらした流域住民は合流点の氾濫原に丸太が山と積み上げられていることを心配していました。洪水が発生したら甚大な被害を引き起こす要因になるからです。その心配は的中しました。

昨年7月4日、球磨川第四橋梁に多量の流木が押し寄せ、流れをせき止め、橋梁はダム化しました。球磨川も川辺川も異常な水位の上昇を引き起こし、過去に一度もなかった氾濫を引き起こしました。その後、音とともに水位は一気に下がっていきました。鉄橋が崩壊し、多量の流木を伴った激甚な洪水が鉄砲水となって人吉市街地へと流れ込み、氾濫水位を大きく跳ね上げただけでなく、莫大な流木とヘドロによって被害は限りなく大きくなってしまいました。

この鉄砲水の発生は山田川・万江川の氾濫で多くの方が命を落とされた後に起きています。人吉市街地の住民は時間差で二度の被害に遭っているのです。

流域にどのような事態が発生したかを検証することが流域治水の一番大切なことです。このような検証は流域住民との共同作業なしには不可能なことです。国・県は流域治水を掲げながら、流域治水が取り組まなければならない根本的な課題に関してはいまだ何一つやっていません。

合流点は人吉・球磨盆地の成り立ちから見て特別に重要な氾濫原である



球磨・人吉盆地は複雑な土地の成り立ちのもとに存在している。合流点は国土地理院の治水地形分類図を見ても分かるように特別に重要な氾濫原である。

球磨川・川辺川合流点の広大な氾濫原は川が自然の節理に従ってつくりださ

れているものです。この氾濫原があることによって、球磨川・川辺川・小きで川から流れ込んでくる洪水を穏やかに人吉盆地に送りこむことができるようになっていたのです。もし、第四橋梁が流木でダム化しなかったら、7月4日の人吉の洪水はもっとおだやかなものになっていたことでしょう。

2020年球磨川流域豪雨が発生させた洪水の大きな特徴は莫大な土石の移動を引き起こしたことです。この土石が洪水の破壊力を強力なものにし、破壊は河川の中にとどまらず、民家やさまざまな施設を破壊し、水田にも大きな被害をもたらしました。流域住民の大きな関心はこの土石の移動に向けられています。2020年と同じような集中豪雨に見舞われることを想定しているからです。

ところが、合流点の氾濫原の中核をなすところに行政側は川から除去した土砂を積み上げているのです。緑の流域治水で命と清流を守ることを大宣伝しているその裏で命を脅かし、清流を破壊する治水対策を堂々とやっているのです。絶対に許されるものではありません。



ここはどんな洪水も受け止めてくれる重要な氾濫原であった。流域治水が一番大切になければならないところであるはずだ。しかし、この場所を緑の流域治水の名の下に消滅させようとしている。

球磨川・川辺川の合流点は最も重要な氾濫原として保全すること

球磨川・川辺川の合流点を土砂置き場にするような暴挙は直ちに中止し、ここに堆積した土石を除去し、氾濫原として保全することを強く求めます。

この対策にしっかり取り組めば、川辺川にダムを持ち込む必要はありません。緑の流域治水を大宣伝された以上、この名にふさわしい流域の対策に取り組むべきではないでしょうか。



2020年7月4日

以前の合流点

以上